

令和6年7月26日

三鷹市議会議長 様

議員行政視察に係る結果報告書

会派名 三鷹市議会 自民クラブ 代表者名 土屋 けんいち

1 視察年月日	令和6年7月16日(火) ～ 令和6年7月18日(木) (2泊3日)
2 視察者氏名	<u>土屋 けんいち</u> <u>加藤 こうじ</u> <u>池田 有也</u> <u>伊藤 俊明</u> <u>吉田 まさとし</u> <u>太田 みつこ</u> <u>吉野 けんさく</u> <u>計 7人</u>
3 視察先及び 視察項目	(1) 福岡県 八女市 ア) 「義務教育学校」について (2) 福岡県 福岡市 ア) 「福岡市科学館」について イ) 「保育所案内板〈空きマップサービス〉」について (3) 山口県 下関市 ア) 「ふくふくこども館」事業について
4 視察結果等	別紙のとおり

* 参考 7月17日、福岡市社会福祉協議会(福岡県 福岡市)



三鷹市議会 自民クラブ
会派視察報告書①

【1:日程】令和6年7月16日(火)

【2:視察地及び視察項目】福岡県 八女市

(1) 「義務教育学校」について

【3:視察報告】

<市の概要>

八女市は人口 59,660 人で福岡県の南部、福岡市から南へ約 50 キロメートルに位置し、北は久留米市、広川町、西は筑後市、南は熊本県、東は大分県に接している。面積は 39.34 平方キロメートルから平成 22 年の近隣 2 町 2 村との合併後 482.44 平方キロメートルとなり、総面積県内 2 位となった。中南部は平野、北東部は森林で占められている中核都市である。市の中央部を国道 3 号線が南北に、国道 442 号が東西に走り、西端には九州縦貫自動車道が通じ、八女インターチェンジが設置されている。豊かな大地に生まれ、古代から栄え、八女丘陵には岩戸山古墳をはじめ多くの古墳が存在。また、手すき和紙・仏壇・提灯などの伝統工芸品や茶・電照菊・椎茸などの農産物も名産品となっている。

<義務教育学校について>

1. 目的

9 カ年の系統的な教育と継続的な生徒指導による学力の向上や、教科担任制・相互乗り入れ授業などによる特色あるカリキュラム及び特色ある指導の実施を目的としている。このほか初等科・中等科・高等科と分けることで各科の最上級生としてリーダーを経験する機会を増やすことで「お手本意識」や「憧れ意識」を育むことも狙いの一つ。また、教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まりも期待されている。

2. 背景

平成 21 年に小中一貫教育校となり、9 年間を通じた教育活動を 8 年間行った。学校教育法が改正になり「義務教育学校」が法律上も学校として認められたことや小中一貫教育校として実績を積み上げてきたこと等を受け、義務教育学校に移行した。

3. 取組の概要

①3 科制(4・3・2 制)による 9 年間の一貫教育

・4 年生までを初等科、5～7 年生までを中等科、8～9 年生を高等科として 9 年間の一貫教育を実施している。児童会(初等科)・児生会(中等科)・生徒会(高等科)が存在し、各科の最上級生がリーダーとして活躍している。

- ・9年間を見通した教育課程による着実なステップアップを目指し、目標・内容の系統性と指導の連続性、学びの連続性を確保している。また、これにより中1ギャップが生じないように設計されている。

②教職員が協働して取り組む組織体制

- ・教科担任制を生かして授業のコマに運営委員会、科会、4委員会(生徒指導、学力向上、人権・同和教育、特別支援教育推進)を入れて実施。
- ・3部会(学びづくり部、関係づくり部、環境づくり部)と4委員会(生徒指導、学力向上、人権・同和教育、特別支援教育推進)は初等科・中等科・高等科それぞれの教員で構成。

③特色ある行事や部活動

- ・全学年で行う歓迎会(4月)、運動会(5月)、学習発表会(10月)のほか、初等科・中等科・高等科の科別で行う科別集会などを実施。また部活動は5年生から入部することとなっている。

4. まとめ

八女市の義務教育学校では9年間の一貫教育の強みを生かし、系統的な教育や継続的な生徒指導を行うことで以前は全国平均を下回っていた学力も改善。平成30年以降は毎年全国平均を上回っている。また、初等科・中等科・高等科と分けることで各科の最上級生がリーダーとして活躍する場面を増やし、「お手本意識」や「憧れ意識」のほか異年齢集団での活動による自尊感情の高まりにつながっている。

義務教育学校の導入当初は各科の教員が児童生徒の指導手法で考え方に違いがあり連携が難しかったものの、教職員が共同して取り組む組織体制を構築し、交流を続ける中で現在では課題を解消した。新たに赴任してくる教員に対しては年度初めの職員会議での共通理解とOJTによる指導により義務教育学校という環境にスムーズに溶け込めるよう配慮されている。また、小学校教諭と中学校教諭が一緒に活動することで教職員の児童生徒理解や指導方法改善意欲の高まりにも効果が出ている。

三鷹市では現在、大沢地域における国立天文台と連携した特色あるまちづくりの一環として、小中一貫教育校の発展型である義務教育学校の導入を検討していることから、今回の八女市における取り組みは市議会における今後の議論の中で大いに参考になるものであった。

三鷹市議会 自民クラブ
会派視察報告書②

【1:日程】令和6年7月17日(水)

【2:視察地及び視察項目】福岡県 福岡市

- (1) 「福岡市科学館」について
- (2) 「保育所案内板〈空きマップサービス〉」について

【3:視察報告】

<市の概要>

福岡市は、市域面積約 340 平方キロメートル、北は玄界灘に臨み、海の中道と糸島半島が抱く博多湾に面しており、背後は脊振や油山などの山々に囲まれた半月型の福岡平野に位置している。山の標高は脊振山頂を除き 1,000m以下で、その山懷を源とし、博多湾に注ぐ川は、多々良川、那珂川、室見川など数多くあるが、いずれも中小河川であり、大洪水もあまりないかわりに水量も多くないといった特徴がある。気候は年平均 18.2℃（令和3年）と比較的温暖ではあるが、日本海型気候区に属している。

人口 165 万人を超える大都市である一方で、都心部から 30 分あれば、海、山の自然に触れることができ、都市的景観と身近な自然が程良く調和したヒューマンスケールの街でもある。また、新鮮な魚介類も豊富なことから、9 割を超える市民から「住みやすい都市である」との評価を得ている。福岡市は、東アジアのほぼ中央にあり、釜山、ソウル、上海、北京、台北などの東アジアの主要都市が大阪、東京、札幌までの距離とほぼ同じ範囲内にあるため、国際線の定期航空路線も多く、日本国内だけでなく韓国、中国をはじめ、アジア諸国との交流には最適の位置にある。

<福岡市科学館について>

1. 目的

福岡市科学館は福岡市の持つポテンシャルを最大限にいかし、科学と感性を融合させた新しい活動展開を行うとともに、科学館を拠点とした 福岡における新たな交流と人材育成を図り、福岡の人々とともに未来の福岡と地球環境を共に創造していく「未来創造型のミュージアム」をめざし設立された。

2. 背景

福岡市科学館は「地域とともに人の成長を支えることを第一に」とのコンセプトのもと、2017年に開館。同施設は「人は生まれたときから能動的な学習者であり、周りの人々を含む環境と相互作用しながら成長する」「その育つ環境を科学の面からつくるものであり、成長を支えるもの」との考えに立ち、ひとりの人が育つには、自らが好奇心を抱き、疑問を持ち、考えを進め、創造性を磨くことが必須であり、そしてそのような経験を経た人は豊かな社会性をも身につけられるはずとの観点のもと、そのような子どもたちを中心とする人々の成長を支援するという意味を込めて、「人が育つ」科学館を目指している。

3. 取組の概要

①サイエンスショー、科学教室

- ・サイエンスショーでは多様なプログラムを展開し、来館者とコミュニケーションをとりながら実験ライブを実施しているほか、科学の原理原則や展示アイテムへとつなぐ子供に寄り添う少人数対話型のショーも実施。
- ・科学教室では幅広い世代が身に着けるべき知識・技能につながる体験や科学の原理・原則に基づいた科学実験を実施している。また、市内の小学4年生を対象に科学に対する興味・関心の第一歩と公共施設利用マナー習得を目的とした学校向けの1日学習プログラムを実施。

②セミナー、講座、科学イベント及び出前授業

- ・最新の科学や社会動向など様々なテーマのセミナーや講座を実施。
- ・探求心や知的好奇心の他、観察や実験を通じた実践的な「科学する力」を養うジュニア科学者養成講座や館長によるゼミを実施。
- ・学校の依頼に応じて移動プラネタリウム、サイエンスショー、科学実験プログラム等の出前授業を実施している。また、出前授業の事前開設や生物教材の飼育の仕方、観察の仕方の説明など教員支援プログラムも行っている。
- ・科学者との会話により科学への興味を深堀し、科学者と科学について気軽に語り合う場としてのサイエンスカフェのほか、福岡市内各所を巡り身近な景色の中にある「なぜ？」を発見し探求に導くフィールドワークも実施。

③アウトリーチ事業、市民参画

- ・公民館や公共施設に出向き各種プログラム等や科学の面白さを伝えるアウトリーチ事業を実施。
- ・来館者に何が提供できるかを考えアイデアを実行するボランティアである運営サポーター事業には現在70名が登録している。
- ・地域交流では地元の高校や大学と連携した事業の開発も実施。

4. まとめ

「サイエンス&クリエイティブFUKUOKA」をコンセプトに「人が育ち、未来をデザインしていく科学館」の取組みとして、単に机上で科学を教育する或いは、最先端技術を見せるだけではなく、興味を持たせ楽しく体験してその先の自発的な学習を促すことを目指されているところに素晴らしさを感じた。

常設展示プログラムのほか「教育普及事業」として24プログラムを行い、それぞれに方針・ねらいを定め、サイエンスコミュニケーターなど専門の担当者を配置し事業を行っている。その中でも出前授業として、学校からの依頼に応じて移動プラネタリウム、サイエンスショー、科学実験プログラム等を実施していることについては、三鷹市も市内の国立天文台と教育についての連携を協議しているが、加えて隣接市の宇宙航空研究開発機構(JAXA)も所在することから、同様の事業が実施できないか気づかされた。

立地・形状としては、駅の近くで3～6階と屋上に存在し、1～2階の商業施設と併設していることにより相互の利点がある。

P F I方式を取り入れ、公共セクターと民間セクター（P F I事業特別目的会社を中心に）とでスキームを明確化して事業運営を行っている点も公共施設の今後の在り方として参考となった。

この視察は様々な角度からみてとても参考になり、三鷹市の魅力あふれるまちづくりの取り組みに向けて多くの学びを得られた。

<保育所案内板〈空きマップサービス〉について>

1. 目的

福岡市では子育て世帯の負担軽減と市職員の電話対応などにおける負担軽減を目的に保育所の空き状況をインターネットの地図上で確認できるサービスをスタートした。

2. 背景

福岡市ではこれまで、保育所の空き状況を紙ベースの一覧表で作成し、希望する市民に案内をしていた。従来の方法の場合、保育所の場所を視覚的に把握することが難しいことから保育所選びに悩むケースが多く、またこれ以外にも入所申し込みの選考結果の問い合わせや希望の園に入園がかなわなかった保護者からの問い合わせの電話対応も市職員の業務の増に繋がっていたことから、子育て世帯の負担軽減と市職員の負担軽減を目的に令和6年1月25日より当該事業を開始した。

3. 取組の概要

①ふくおか保育所案内板

- ・年齢や空き人数などの条件を指定することにより地図上で該当施設の空き状況の確認が可能。空き状況は随時更新されていく。

②保育所入所申し込みの選考結果確認

- ・各家庭に福岡市から送付する受付番号を入力することで結果を確認できる。
- ・希望通りとならなかった場合も二次申請・三次申請の案内を確認可能。

4. まとめ

保育所の空き状況をインターネットの地図上で確認できるサービスの効果について、保育所の空き状況を随時地図上で確認できることは、従来の紙ベースでの情報提供から、子育て世帯が都合の良いタイミングで空き状況を確認できるという利便性向上に繋がる取り組みであった。また、行政側においてもシステム導入により、福岡市内の約470園の入園調整が円滑に行えるようになるなど、担当職員の事務負担が軽減され、子育て当事者への対応もより丁寧に行えるようになったことも確認できた。更に、これまで書面で通知して

いた入園申込み結果も、一次選考においては受付番号を入力することでオンラインでの確認が可能になり、子育て世帯の利便性向上と、問い合わせ対応に追われていた市職員の負担軽減にも効果がある取り組みであった。

三鷹市においては、現在国の定義において待機児童の解消が進んでいるが、よりニーズに寄り添った保育所選びが求められている中でこのようなシステムを活用することは当事者への効果的なマッチングに繋がると考えられる。また、従前膨大な事務作業を要する保育所入園調整においても、システム導入により、職員の負担軽減につながり、本来行政において重要な役割となる子育て相談業務や多様化する子育てへの丁寧な対応に時間を要することができ、子育て当事者の満足度を高める取り組みへと繋がると考える。

三鷹市においても待機児童解消で満足することがないよう、今回の視察を参考にしながら、よりニーズに合わせた保育マッチングに向けた取り組みを提案していきたい。

三鷹市議会 自民クラブ
会派視察報告書③

【1:日程】令和6年7月18日(木)

【2:視察地及び視察項目】山口県 下関市

(1) 「ふくふくこども館」事業について

【3:視察報告】

<市の概要>

下関市は、本州最西端部に突き出た半島状の地形で、東南に周防灘、西に響灘、南は関門海峡を隔てて対岸の北九州市と、東は陸続きで山陽小野田市、北は長門市と接している。地勢は、豊浦山系の支脈をなす大部分と標高 100m以下の丘陵からなり平野に乏しい起伏の多い地形のほか、標高約 300mの山々が連なる丘陵地帯や、山林地帯、平野地帯が存在するなど豊かな自然環境に恵まれた地形となっている。

人口は令和6年6月時点で24万人を超えており、中核市および中枢中核都市に指定されている。

<ふくふくこども館について>

1. 目的

「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした、無料で遊べる子育て支援施設。市民の交流と子育て支援の拠点として、新築された JR 下関駅ビル内にオープンした。未就学児と保護者が一緒に遊ぶプレイランドと、多世代が交流することを目的とした交流スペース・クリエイティブランド、こども一時預かり室等の設備が備わっている。子育てにかかわる人に向けたサポートも整っており、地域ぐるみで未来を担う子どもたちを育てていくことを支える施設となっている。

同施設は様々な遊びと学びを提供する「遊び・体験学習」、地域の子育てに関わる人々をサポートする「子育て家庭支援」、市民を結び付け下関を元気にする「地域活力推進」、下関らしさを楽しく伝える「郷土文化伝承」の4つの役割を担っている。

2. 背景

ふくふくこども館は平成17年に基本構想が公表された「下関駅にぎわいプロジェクト」の中で検討され、検討協議会やワークショップ、パブリックコメントなどを行い、平成25年に名称を募集。同年8月に「ふくふくこども館」に名称を決定し、平成26年4月より供用開始となった。「次世代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした同館は多くの子育て世帯に利用されている。運営は指定管理で行われており、現在は社会福祉法人「下関市社会福祉事業団」と主に保育士で構成する NPO 法人「下関子ども・子育てネット」で運営されている。

3. 取組の概要

①遊び・体験学習

- ・下関の海をイメージしたプレイランドでは就学前の子どもたちと保護者のための楽しい遊び場として、子どもたちの好奇心やチャレンジ心をくすぐる様々な遊びが可能となっている。

②子育て家庭支援

- ・専任保育士が常時配置されている一時預かり室では買い物やリフレッシュなど様々な理由で子供を預けることが可能。
- ・相談室では子どもや子育てに関する相談を随時受け付けている。日によっては有資格者による特別相談も実施している。

③地域活力推進

- ・多目的室では様々な子育て支援プログラムを実施しているほか、貸会議室としても利用できるようになっている。

④郷土文化伝承

- ・交流スペースは下関市の衛星写真の床地図を囲んで子供から大人まで気軽に集えるスペースとなっているほか、壁には下関市ゆかりの詩人である金子みすゞの詩が並んでいる。

4. まとめ

ふくふくこども館は、JR 下関駅東口から徒歩1分に位置し、「次代を担う子どもたちを多世代で育む」を基本コンセプトとした市民の交流と子育て支援の拠点施設として、プレイランド、交流スペース・クリエイティブランド、多目的室、こども一時預かり室を建物の3階ワンフロアに集約する構造となっており、子育て世帯をはじめとする利用者への利便性の高さを実感した。

下関市社会福祉事業団とNPO法人下関子ども子育てネットが指定管理により運営する同施設では、特に「下関子ども子育てネット」は保育士スタッフが充実しており、子育てへの悩みなどに対する相談機能を重視した運営であることが窺えた。

プレイランドでは未就学児が安心して遊べる場所を提供し、交流スペース・クリエイティブランドは、地域の作品展示やイベントを開催、多目的室は様々なプログラムや地域団体のレンタルスペースとして利用されている。この他、一時預かり室は子育て中のリフレッシュ・冠婚葬祭・急なお出かけなど、様々な理由で子供を預けることができる場所で、施設全体で総合的に子育て支援を行う施設となっており、前述の子育てへの相談支援と併せてきめ細かい支援内容が充実していた。

ふくふくこども館は他市からの利用も多く、近隣市も含めた地域における子育て支援のモデルケースとして重要な役割を果たしていた。三鷹駅でも駅前再開発が計画されているが、今後このような取り組みを駅前の施設で導入を検討するなど、子育て環境の向上を図る上で非常に参考となる取り組みであった。